

クマ被害対策



こちらのHPにある『クマ対策』項目を
タッチすることで本PDFがダウンロード
できます



Facebook 北海道の1ハンターの
暮らし（ご興味のある方のみご覧
ください）



熊は、知能・学習能力・嗅覚・執着心・復讐心、その他においてかなり『賢い動物』です。
一度出没した場所には必ず再出没します。

クマの寿命



ヒグマは 20～30年
(野生下で34歳のメスヒグマ、30歳のオスヒグマが確認されています)



ツキノワグマは 15～20年
(野生下で20歳を超える個体は稀。最長で24歳)

1. 温暖化がすすみ鹿が越冬しやすくなり、冬を越せなかった小鹿が容易に越冬できるようになった。

2. 牧草の品種改良で栄養価が上がった為、特に牧草地での鹿が爆発的に増えた。



4. 熊の個体数が増えた上に異常気象により山に餌となる木の実などが不足する半面、鹿が爆発的に増えた為、鹿を食べるなどして肉食に傾いてしまった。



(注意) ハンターがシカの残滓を放置したため、クマが肉食化したと言うのは行政側の言い逃れ。

(参考) 行政によっては、無償で鹿の残滓受け入れをしている自治体も有る。

なぜクマが人里に出没する？

4 / 14

1. 人間都合による自然林破壊。

2. 人里の減少。

3. 高齢化による限界集落の増加。

4. 温暖化により山に食べ物が実らなくなった。

(自然林を切り倒し、杉や松を植える事でクマの食べ物が不足)



C国による太陽光
パネル



自然林の伐採
(杉の植林)



森近くに新興住宅街

【個体数の増加】

1. 30数年前から、春の熊の駆除が禁止され個体数が増加。

2. 強い熊が山林を支配し、縄張り争いに負けた熊が食料を求め人里に下りてくる。

2. ハンターの高齢化



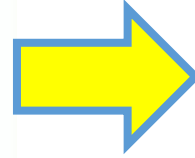
による熟練者の減少(銃刀法改正による猟銃所持が困難化)。



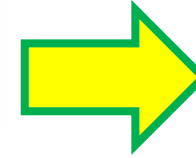
なぜ熊は人を恐れず人を襲う??



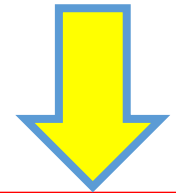
30数年前は、春のクマ狩り
をしていた



30年以上クマ狩り
はされていない



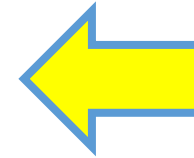
30数年の歳月が経ち人を
恐れない『新世代クマ』が
誕生



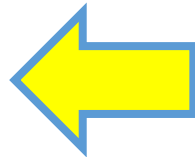
新世代クマが、子熊に『人
間の怖さ』を教えないまま次
の新世代クマが増えた



鹿の増加に伴い、鹿の死骸も増加し
鹿肉を食べるようになった。



人間より自分たちが
強い事を自覚しはじめた



人間は逃げ足は遅い、毛も生えていない。
鹿よりも簡単に獲れて食べやすい。



1. 爆発的に鹿が増加し、動きの遅い高齢鹿や小鹿を襲う様になった。
2. 肉食化したクマには、逃げ足の遅い(シカのような体毛が無いいため食べやすい)人間も格好の餌。
3. 人を恐れるのは昭和生まれのクマであり、新世代のクマは人や音など怖がらない。
4. 人がクマを恐れる姿を見て、自分たちが上位だと認識している。
5. 一度うろついた住宅街等は、自分の縄張りと思っている(クマは縄張り意識が非常に高い)。

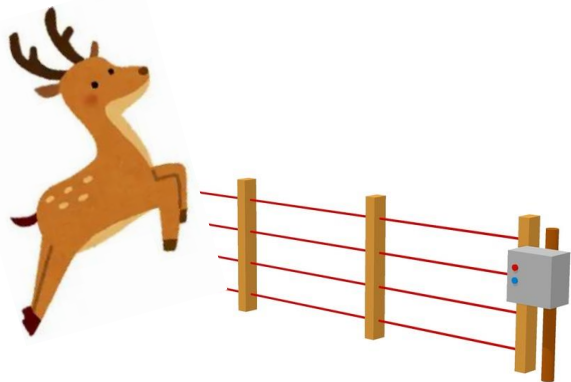


クマも時代の流れと共に進化をしている

【なぜ熊は爆竹等の音を怖がらないの？】

- ・ 長年のクマ狩りの廃止(2023年から再開)により、猟銃は怖い(発砲音 = 危険)という学習をしていない。
『爆音 = 猟銃』 という結びつきが無く、音に対する恐怖感は薄い。

電気柵の欠点



電気柵の間をジャンプしながらぐったり、飛び越えて侵入してしまう。
体が宙に浮いているシカはアースが取れていないので感電しない。

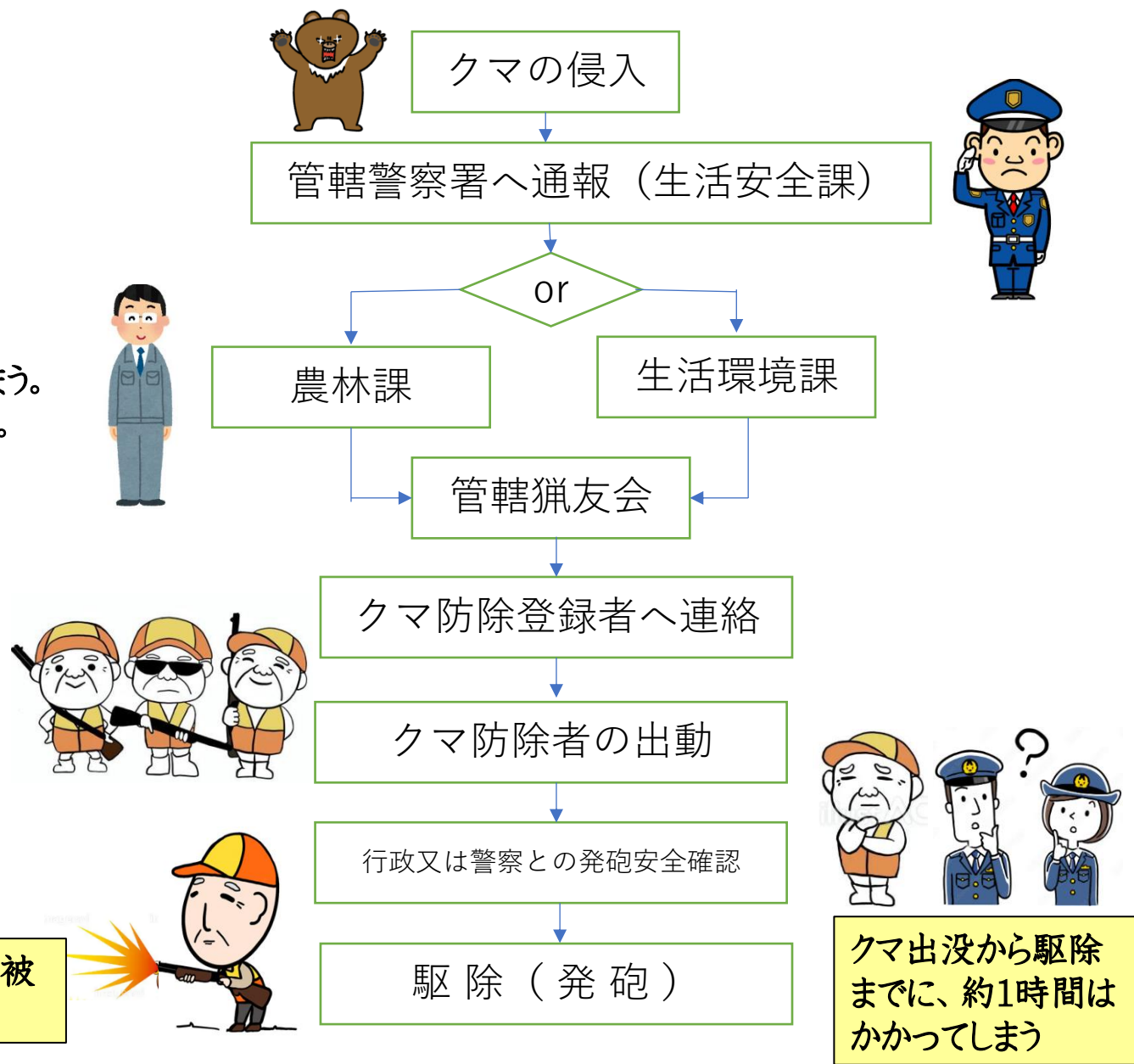


電気柵の下の土を掘って侵入してしまう。
千歳、苫小牧は火山灰地なので容易に掘る事が可能。
鼻先等が電柵に触れない限り、硬く厚い
毛皮は電柵に触れても感電しにくい。
(雨等で体毛が濡れている場合を除く)

クマは立ち去り、残るは被害者の○体のみ

敷地内にクマが侵入してからの流れ

7/14



クマ出没から駆除
までに、約1時間は
かかってしまう

クマ 侵入対策（参考）

8 / 14

1. 電柵の上下間隔を20cm幅以下にする ❸
2. 希望されたお客様に『クマよけスプレー』を無料で貸し出す ◎
3. 各カート及び休憩所に『クマよけスプレー』を最低2個常備する ◎
4. 定期的にドローンによる上空からの監視をする（サーモグラフィ式）○
5. 鹿・熊監視（防除）員の常駐（安平町の牧場では実施）◎

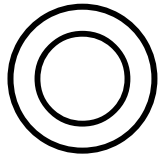
1. 各カートに、緊急自動報告装置を設置 ○
2. コース内になるべく茂み等、クマが隠れる場所をつくらない ❸



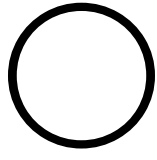
❸ 大変有効 ◎ 有効 ○ 有効だが人手がかかる △ 有効だが現実的ではない

(参考) クマ対策

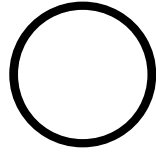
9 / 14



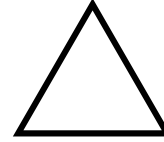
クマよけスプレー



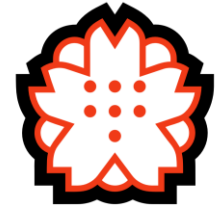
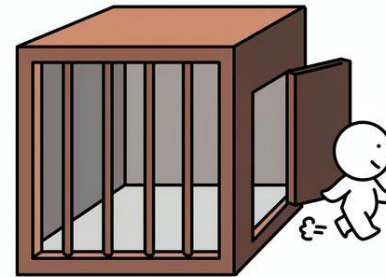
クマ監視カメラ
夜間侵確認対策



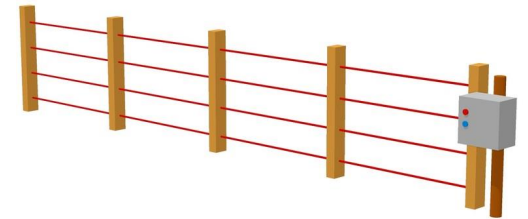
クマ退治ドローン
兼用
クマ監視ドローン



クマ出没時
一時緊急避難檻



電気柵



クマよけ電柵は最下位の電線は地面からなる20 c m以内である事

(参考)

クマは大声で威嚇しても人を怖がらなくなった為、大きく手を広げ大声で威嚇するのは最終手段。
クマは特定の人間を襲っている間、他の人間は襲わない。この習性を利用し他の方はゆっくり後ずさりしその場を立ち去る
(襲われている方は、ハンター到着まで頑張ってください)。

「滝のカントリークラブ」のコース内にクマが出没し、駆除した件

鳥獣保護管理法に基づくシカを捕獲する許可は有っても、クマを駆除する許可が無い場合はたとえ『緊急避難的な措置』で有っても違法行為となります。（参考1）

（参考1）ゴルフ場内へのクマ進入を知らされていた場合、クマに襲われる危険性を予知できた為。

鳥獣保護管理法では、クマに発砲しなくてはならない場合、自治体長の判断を得て依頼を受けたハンターだけが発砲することができます。（7/9ページ右側図参照）

クマの駆除許可を受けていないハンターは、ゴルフ場内でクマに襲われているプレーヤーが居ても発砲は出来ません。（参考2）

（参考2）有害駆除登録の際、シカ・クマの駆除許可を事前に受ける必要があります。

またゴルフ場という公共の場での駆除は、警察・自治体長の安全確認後のみの発砲可能となります。

銃規制が厳しい日本では、ハンターは『クマ』ではなく『警察』が怖くてクマへの発砲は困難です。

クマの出没が増えるなかで、人を守る現場と法律との間に隔たりが生じています。

ドローンなどの最新技術を積極的に導入しクマの出没（潜在）を監視することも、ゴルフ場の安全を守るひとつの打開策となるかもしれません。

有害鳥獣駆除を委託されたハンターの目前で、クマに襲われている人が居れば、発砲して助けても良い？

警察からの回答

- 1：シカの駆除許可証のみの場合は、クマへの発砲は違法です。
- 2：バックストップが無ければ発砲は禁止。（＊１）
- 3：人命救助より『猟銃使用の法律遵守』を心掛けてください。
- 4：発砲する前に警察に連絡して下さい。警察官が到着後、周囲の安全を確認致しますので安全が確認できれば、発砲を許可いたします。
- 5：ハンター独自の判断で発砲した場合、警察官が現場を確認し合法であったか判断後『違法性がある』と判断した場合、銃所持許可を取り消します。

（＊１）発砲した弾が的を外れ又は貫通した場合、その先に弾が止まる土の斜面等のこと。

結 論

クマに襲われている方にはお気の毒ですが、行政・警察官が到着するまでお待ち下さい。
行政・警察官による安全確認ができない場合（バックストップ等が無い）、発砲による救助は出来ません。

ゴルフ場内へのクマの侵入防止は、ほぼ不可能

- 1：クマは穴掘り名人です、電柵下の土を掘って簡単に侵入してしまいます。
- 2：一度侵入したクマは何度でも侵入してきます。
- 3：侵入防止対策は重要ですが、侵入したクマを見逃さない体制作りは最重要です。
- 4：クマは早朝、特にゴルフ場内に茂みや森がある場合、夜のうちに侵入したクマが人を襲う危険性があります。

クマ被害（人身事故）に対する対策

- 1：クマ被害は行政の怠慢。自然林を杉山にし、外資系企業に国土を売り太陽光発電を推奨した行政と無茶な猟銃法や鳥獣保護法を押し付ける警察にも責任が有ります。
（人身事故責任は転嫁しましょう）
- 2：有害駆除許可（クマ対策）を受けた専従ハンターを雇う事をお勧めします。
前説明の通りハンターは安易に発砲ができませんので、クマによる人身事故防止のため発砲するか否かはハンターの判断に一任されます。万が一発砲できないと判断し、人身被害が発生しても万全を尽くしたゴルフ場側には落ち度は有りません。
- 3：ハンターは、『猟銃法を遵守し、自己判断をせず警察官の到着を待った』と言えれば問題有りません。
- 4：クマ対策には、法律（銃刀法、狩猟法）が大きな妨げになっています。
- 5：『クマ対策』には限界が有ります、『起きてしまったら対策』を考える事が重要だと考えます。

九州にはクマが居ない（2012年に環境省が絶滅を宣言）

- ・九州の山というのは、人工林が非常に多い。人工林というのは、クマが冬眠をする際のエネルギー源になる『どんぐり』、こういったものが実らない
- ・冬眠をする場合のエネルギー源がないということで、クマが生きていけない
- ・九州の山はそれぞれが分断されているため、広い面積を生息地とするクマが生きにくいことも関係がある
- ・明治時代の乱獲の影響

東日本・北海道のクマは放っておいても減少

土地開発と異常気象により、クマの餌（カラフトマス、どんぐり、山ぶどう、桑の実、）が不足
今がクマが人里に降りてくるピーク時（10年後にはクマが生きていけない環境になり、クマの頭数は自然に減少する）

野生動物は環境によって生態を変える

カモメが都会に住み着いたのが良い事例。
従来の生息地は過密気味。弱いクマは新天地を求め人里へ下りてくる。
動物側も、市街地という新たに住めそうな土地に気づく個体が増えてきた。

国有林への立ち入り禁止（恵庭市での事故）⇒シカ、クマが大繁殖
C国による日本国土の買収（苫小牧の山林では軍事施設が建設中）⇒ハンター（日本人）は立ち入れない

これまでの森など自然界に住む動物の生態は、「〇〇の習性是这样だから、〇〇すべき」という想定をしていたが、それが崩れかけている。

またクマやイノシシは、森にあるドングリが好きなはず、というのも思い込みで、**ドングリより人が栽培した野菜を好む。**

品種改良でアクをなくし甘く美味しくした野菜を食べると、ドングリにはもどらない。

最近では、**草食性のシカが小鳥を食べている姿**の目撃情報も有る。

クマは雑食性だが、これまで餌の9割が植物性だったとされる。爆発的に増えた鹿を襲い肉食に傾斜した。